

2012年度 大学院共通科目

内部共生と生物進化

Endosymbiosis and Evolution

(01ZZ612 / 1単位)

非常に多くの生物が、恒常的もしくは半恒常的に他の生物（ほとんどの場合は微生物）を体内にすまわせている。このような「内部共生」という現象から、しばしば新しい生物機能が創出される。共生微生物と宿主生物がほとんど一体化して、あたかも1つの生物のような複合体を構築する場合も少なくない。共生関係からどのような新しい生物機能や現象があらわれるのか？共生することにより、いかにして異なる生物のゲノムや機能が統合されて1つの生命システムを構築するまでに至るのか？共に生きることの意義と代償はどのようなものなのか？個と個、自己と非自己が融け合うときになにが起こるのか？共生と生物進化の関わりについて、その多様性、相互作用の本質、進化的な意義などを概観する。

産業技術総合研究所・筑波大学教授（連携大学院）

深津 武馬（ふかつ たけま）

5月23日(水)・24日(木) 9:00～17:00

生物・農林学系 **A110** 公開講義室